

# 神尾てるあき てるてるネットワーク

2014年7月17日

第24号

てるてるネットワーク編集部  
東京都江戸川区春江町 3-32-3  
info@kamioteruaki.com



## 先進国内で低水準、減らない子どもの事故！

### 1. 日本の子どもの事故死数

みなさんは「日本の子どもの事故死数」についてご存知でしょうか？ 我が国の乳児死亡率は世界で最も低いことはよく知られていますが、乳児期以降の0歳児の事故による死亡率は先進15ヶ国中4番目に多く、1～4歳児でも5番目に多いのです。厚生労働省の発表している子どもの死因の上位には「不慮の事故」があり、長年この傾向は変わっていません。しかも、その大半は家庭内で起こっています。本来安全だと思われている自宅の中に意外な落とし穴があるということがデータ上も明らかです。先日、NPO 法人とうきょう・はっぴーくらぶの主催するシンポジウム「子どもの命を大切に！」に参加させていただき、私も認識を新たにしました。ついつい我が子に限っては大丈夫と思ってしまいがちですが、「不慮の事故」は他人事ではありません。少子化が懸念される時代ですので、授かった尊い子どもの命を守っていくのは我々の責務でもあります。情報をできるだけ多くの方と共有して、子どもの事故をなくしていく取り組みをしましょう。

### 2. なぜ子どもの事故は減らないのか？

我が国で子どもの事故が減らない最大の原因は、子どもの事故に関しての詳しいデータが存在しない点にあると私は考えています。例えば、交通事故や労働災害などは、事故について調査し、原因を分析する専門の行政機関があります。交通事故があれば警察が事故の発生から対策・予防に関して取り組みます。しかし、子どもの事故に関しては一括して対応する機関がありません。保育所で事故があった場合は厚生労働省、学校ならば文部科学省、国の管理する公園であれば国土交通省、市区町村の管理する場所での事故は各自治体といったように、管轄がバラバラで事故の情報が分析されることがほとんどありません。①事故が発生した環境、②事故に起因した製品名の報告、③医療機関での事故による傷害の報告、④専門家による事故原因の分析、⑤具体的な予防策の立案、これらを事故全体で一元化して管理する仕組みができれば、子どもの事故は減らせるのではないのでしょうか？

### 3. 具体的にどのような危険があるのか？

子どもが3歳になるまでの間に、8割は病院にかかるような事故を経験するというデータがあります。私も3児の父親ですが、これまで我が子を病院に連れていくようなケースが何度かありました。ほとんどの保護者は「子どもから目を離さないようにしている」と言いますが、3歳未満の子どもの事故の大半は、保護者の目の前で起こります。つまり、子どもの事故＝保護者の不注意という構図ではないのです。子どもの事故の具体例としては、①お風呂で溺れる、②カーテン・ブラインドの紐に引っかかる、③歯ブラシを口に入れたまま転ぶ、④ボタン電池など小さい物を飲み込む(誤飲)、⑤高い場所からの落下などがあります。注意すべきなのは、大人と違って、子どもは日々成長しているという点です。昨日までできなかったことが今日できるようになっているのが子どもです。その点をよ

